

竹下復興大臣記者会見録

(平成27年3月17日(火) 8:35～8:38 於) 官邸エントランス)

1. 発言要旨

私からは、15日に仙台へ行きまして国連防災世界会議に出席をいたしました。復興庁主催の総合フォーラムで基調講演をさせていただきました。東日本大震災の復興の現状あるいは教訓、あるいは世界で共有したいさまざまな知見、ノウハウ等についてお話をし、さまざまな議論をいただきました。また、その際に、オーストラリアのキナン司法大臣、この司法大臣が災害を担当しておられる大臣だそうです。それから、ニュージーランドのブラウンリー震災復興担当大臣と2国間会談を行いました。いずれも、さまざまな災害が多い国でございますので、これからも協力し合って、お互い知見を高めながら、災害防止に努力しようと、そして、協力しようということを確認し合ったところでございます。私からは以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 昨晚、被災地の中高生向けのチャリティーイベントをされたと思うんですけども、そちらのご感想と今後どうしていきたいか、お伺いします。

(答) はい。昨日は、ニュージーランド大使のシンクレアさんが主催というか、各国の大使館が主催をする子どもたちを留学させる、2週間程度というふうに聞きましたが、そういうチャリティーの催しがありまして、参加をさせていただきました。500人以上集まって、大変盛会でございまして、今年も12人の高校生・中学生が、今年はアメリカへ行くと同っております。既に228人と言ったかな、震災以降、被災地の子どもたちを海外へ送り出しております。大変ありがたい試みであると、こう思っております。

といいますのは、やっぱり風化が進むという状況の中で、東京で、ああいうさまざまなイベントを開催してもらうことが風化を防ぐ一つの大きな土台になりますし、それから、被災地の子どもたちは、支倉常長ではございませんが親善大使といいますか、子どもたちはもう立派にその役割を果たしてくれますので、そういう意味でも、被災地の生の声を世界各地の皆さん方に理解をしてもらうのに役立つこと、さらには、子どもたちは、自分のふるさとかからだけではなくて、世界から、外から、この被災地を見ること、あるいは、世界の人たちが東日本大震災の被災地をどう見ているか、どう受け取っているかということをしつかりと学んで帰って来てくれるものと期待をしておりますので、そういった意味でも、子どもたちの成長という意味でも、大変意義のあるイベントであると、こう思っております。そういった趣旨のあいさつをして、「もっとやってくれ」ということを言ってきました。

(以 上)